

東京湾再生官民連携フォーラム

⑥ 東京湾再生のための行動計画の指標の活用

東京湾再生のための行動計画の指標の活用PT長 岡田知也

(国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋防災研究部 海洋環境研究室長)

「海」の環境の「指標」と聞かれたら、何をイメージされるだろうか？きっと、CODや大腸菌など、化学的なものを頭に浮かぶ方が多いと思う。第一期の東京湾再生のための行動計画におい

ては、DO濃度のみを指標としていた。DO濃度は、水質、底質および生物生態に関連するため、環境状態を代表して表現する指標として選ばれていた。しかし、DO濃度のみでは活動や施策

を評価することは難しくなった。また、市民に馴染みのない指標では、市民へのアピール力が弱かった。そこで、本PTの前身「東京湾再生のための行動計画の指標検討PT」では、多様な主体に

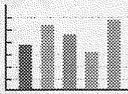
よる東京湾再生に資する活動がより一層促進できるように、多様な視点を考慮して28項目からなる指標群を二昨年度、第二期の東京湾再生のための行動計画の指標として東京湾再生推進会議に提案した。指標の中には、透明度、COD、DO濃度等の化学的な指標に加えて、「ゴミ回収活動の参加者数」や「水遊びや環境学習等のイベントの参加者数」など市民の活動・行動に関連する指標を含んでいる。活動・行動が指標化されることによって多くの人が評価・認知され、活動・行

東京湾再生のための行動計画の指標の活用PT

新しく東京湾を表す指標をつくりました

みんなで有効に活用できる指標データをサポートします

『指標検討』のステップから、『指標の効果的活用』のステップに移行していろいろなデータ収集をおこないます。



- ①行政(東京湾再生推進会議)とNPO・民間(企業)、大学・研究機関との情報共有のサポート
- ②市民活動データ収集のサポート
- ③指標に関する相談をおこないます

「東京湾再生のための行動計画」の指標検討PT <2014年～2015年活動>

東京湾を知る指標には、生きものの生息場所、ごみの量や公園施設利用者数、イベント開催回数など、さまざまな指標が有効です。みんなの研究成果が、平成27年提案書になりました。平成28年度から新しく「指標活用PT」として、さらに充実した活動を始めています。

<指標提案の詳細>
http://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000100.html

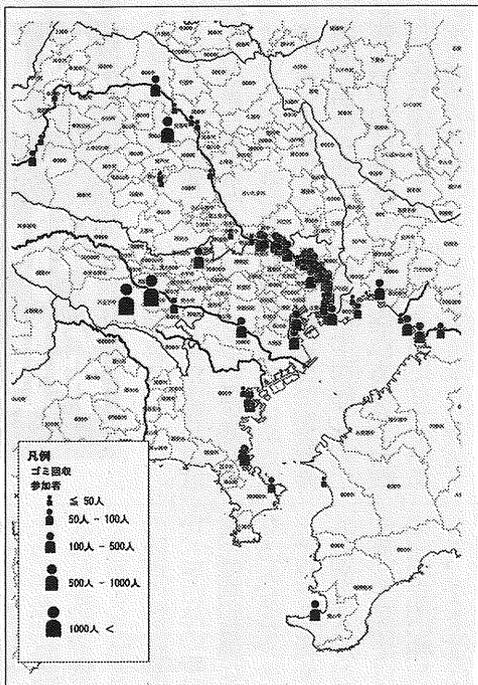
動が一層促進されることを期待している。一方、市民の活動・行動に関するデータは、化学的指標とは異なり、行政機関では把握することが難しい。そこで、「東京湾再生官民連携フォーラム」が提案した指標を、多様な主体が効果的に活用することをサポートし、東京湾再生のための行動計画(第二期)の全体目標が達成されることを支援することをミッションとした本PTを立ち上げた。

今年度は、「ゴミ回収活動の参加者数等」、「水遊びや環境学習等のイベントの参加者数等」および「東京湾の再生に取り組み企業・団体数等」について、東京湾再生官民連携フォーラムの会員にアンケート調査を実施した(図参照)。昨年度1年間で、2万3000人も市民がゴミ回収活動をしてきた。また、5万3000人もの方が水遊びや環境学習等のイベントに参加していた。さら

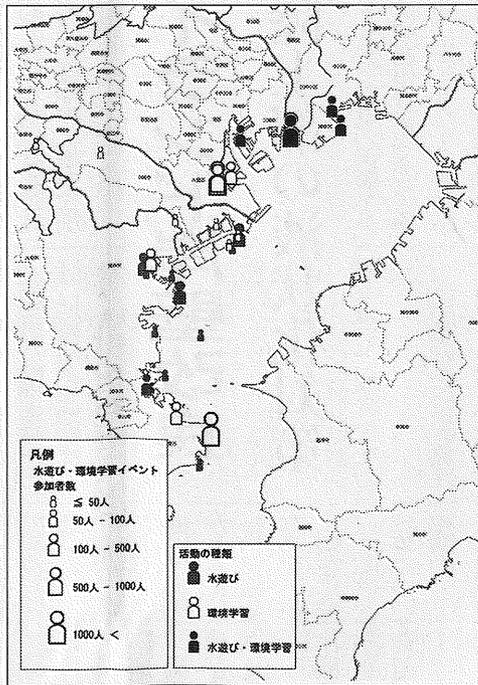
に、311団体が東京湾の再生に取り組んでいた。同様のアンケート調査を毎年実施する計画である。各指標の参加者数や団体数が年々増加することを期待している。

最後に読者の皆さまにお願いです。実際はもっと多くの方や団体が、これらの活動に参加し、取り組みを実施していると思

っています。来年のアンケート調査では、是非ご回答下さい。皆様のご回答が、未来の東京湾の再生の礎になります。



ゴミ回収活動の参加者数



水遊びや環境学習等のイベントの参加者数